

4. モデルルートによる取組

○官民の関係者等で構成される協議会において、複数の市町村に跨がる広域的なサイクリングルートを設定し、走行環境や受入環境の整備、情報発信等を行うモデルルートの取組を推進。2018年度中に36ルートが設定済。この他、約40ルートで検討中。

■モデルルートの進め方

準備が整い次第

モデルルートの設定
 ▶整備局と県・政令市が連携して掘り起こし

協議会の設置
 ▶既存の枠組みを活用し、国、自治体、DMO、観光事業者、地域の関係者等で構成
 ▶路面表示や案内看板の仕様等を含め、実施内容について検討・調整

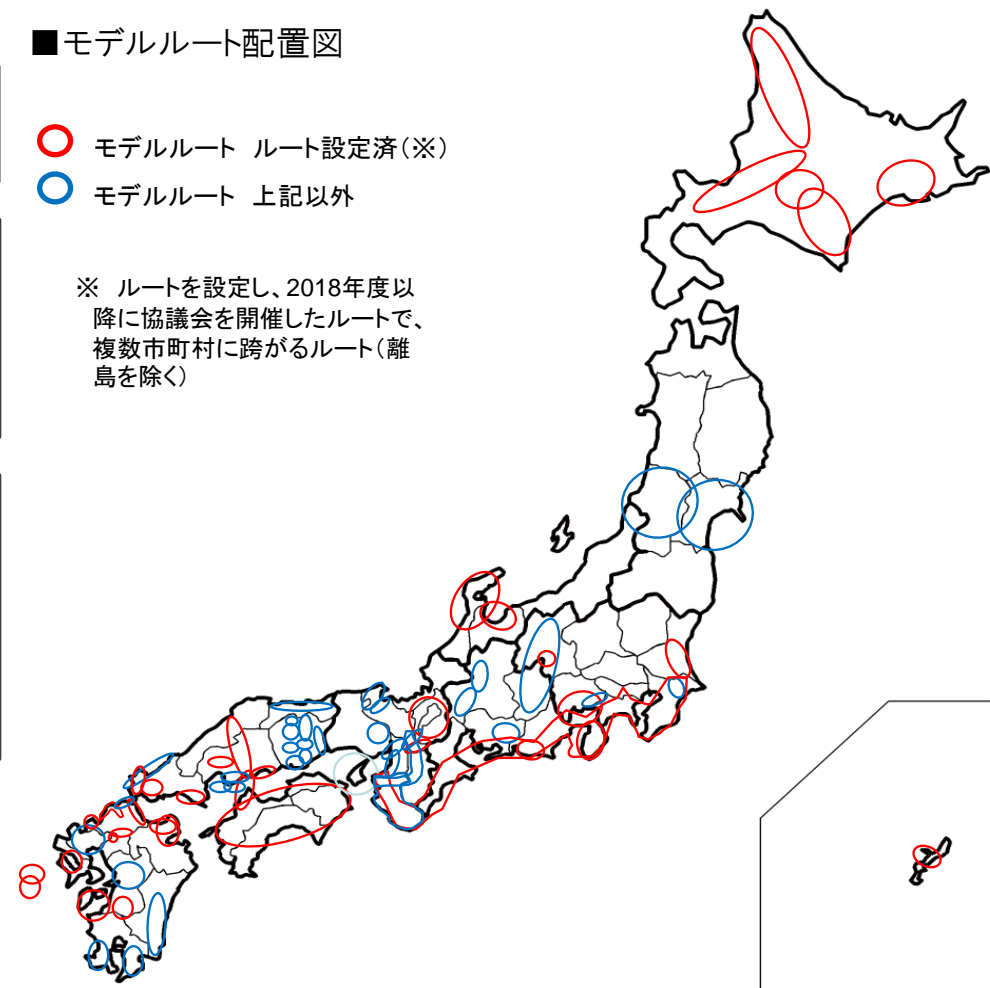
モデルルートにおける取組内容の決定【地方版自転車活用推進計画に位置付け】
 ▶走行環境整備（安全対策、案内看板等）
 ▶受入環境整備（休憩所、サポート体制等）
 ▶魅力づくり(滞在コンテンツの充実・強化等)
 ▶情報発信(ルートマップ作成、ICTの活用等)

取組内容の評価・改善
 ▶サイクリストの声や関連データの収集・分析
 ▶先進地との情報交換

■モデルルート配置図

- モデルルート ルート設定済(※)
- モデルルート 上記以外

※ ルートを設定し、2018年度以降に協議会を開催したルートで、複数市町村に跨がるルート(離島を除く)



オリパラ開催(2020年夏)までに、太平洋岸自転車道全線(約1400km)に渡り、
路面表示・案内看板の設置等、路線として統一感のある整備を実施

そのために

関係機関(国・県等)からなる協議会を組織し、看板やロゴ等の仕様等について調整
路線統一コンセプトを構築するための具体的な取り組み

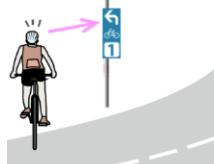
現地における路面表示・案内看板設置

○路面表示



※しまなみ海道の例

○案内看板



※北海道モデル
ルート例

情報発信の強化

- 愛称・ロゴ
- 路線MAP作成
- HP等による広報
- 旅行会社等エージェントとタイアップ



BIWAICHI
びわいち

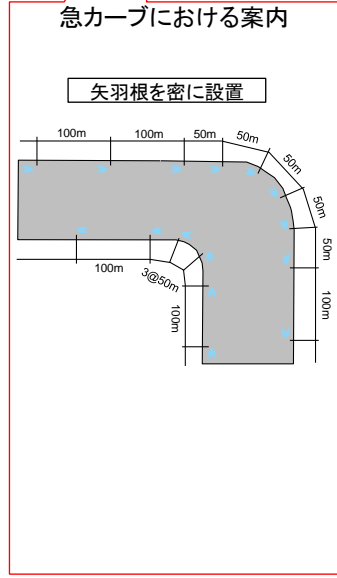
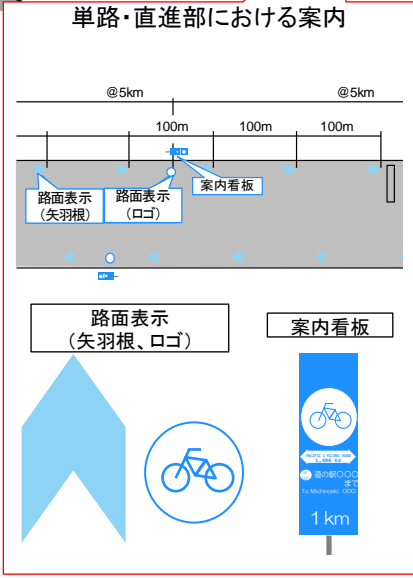
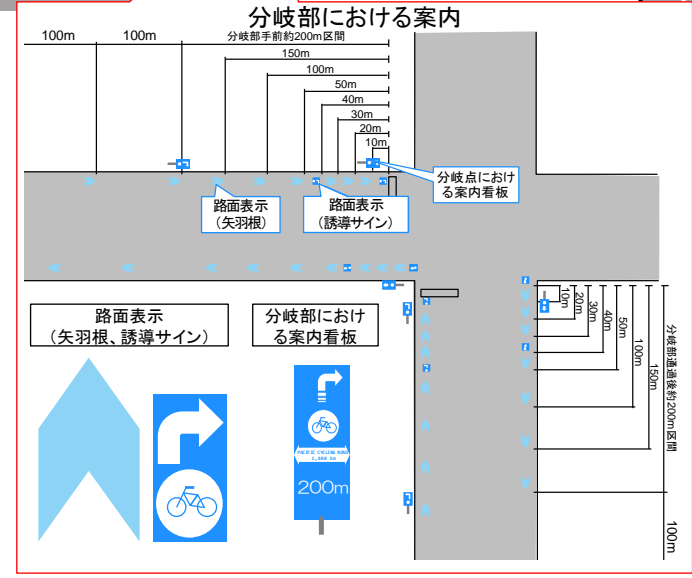
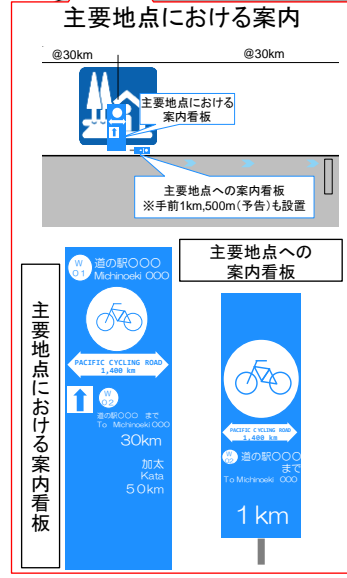
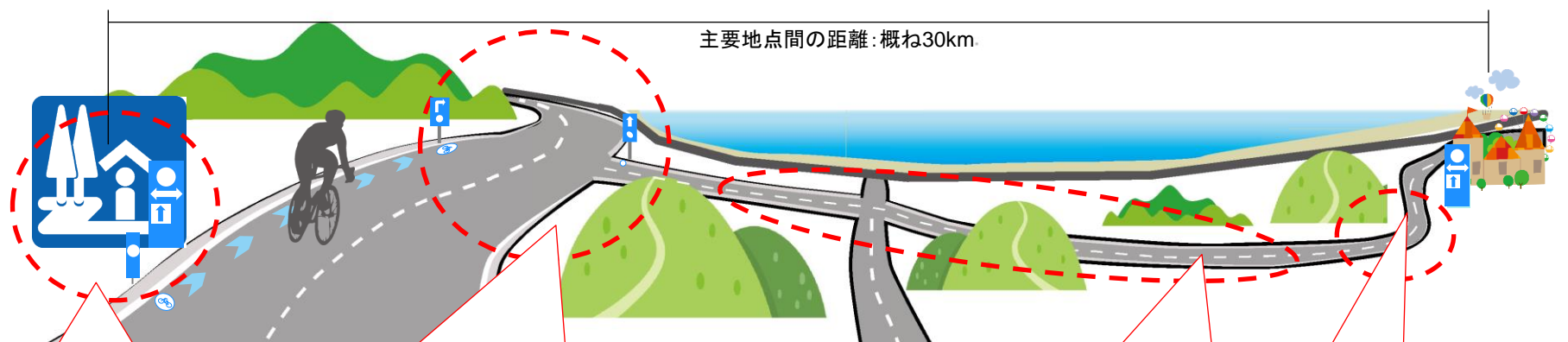
※びわいちの例



官民連携による取り組み

- 受入環境の整備(太平洋岸自転車道指定のサイクルステーションの設置等)
- 魅力づくり(滞在コンテンツの充実・強化等)
- 情報発信の強化(ルートマップ作成、ICTの活用等)

- オリパラ開催(2020年夏)までに、太平洋岸自転車道全線(約1400km)に渡り、路面表示・案内看板の設置等、路線として統一感のある整備を実施。
- 路面表示、案内看板について仕様を設定。案内看板は青色で統一し、ロゴ、進行方向、主要地点名・番号、主要地点までの距離を明示したものを設置。
- 迷走の恐れの高い分岐部では、予告看板や路面表示を設置し、太平洋岸のルートを見失わず走行できる環境を構築。



5. ナショナルサイクルルートについて

自転車活用推進法に基づき、自転車を通じて優れた観光資源を有機的に連携するサイクルツーリズムの推進により、日本における新たな観光価値を創造し、地域の創生を図るため、ナショナルサイクルルート制度を創設する。

サイクルツーリズムの推進に資する魅力的で安全なルートであることなど、一定の要件を満たすサイクリングルートを対象としてナショナルサイクルルートに指定する。
将来的には、全国のナショナルサイクルルートのネットワーク構想を検討する。

【参考】自転車活用推進計画(2018年6月8日決定) 措置

日本を代表し、世界に誇りうるサイクリングルートについて国内外へPRを図るため、ナショナルサイクルルート(仮称)の創設に向けて、インバウンドにも対応した走行環境や、サイクリングガイドの養成等受入れ先として備えるべき要件、情報発信の在り方等について検討する。

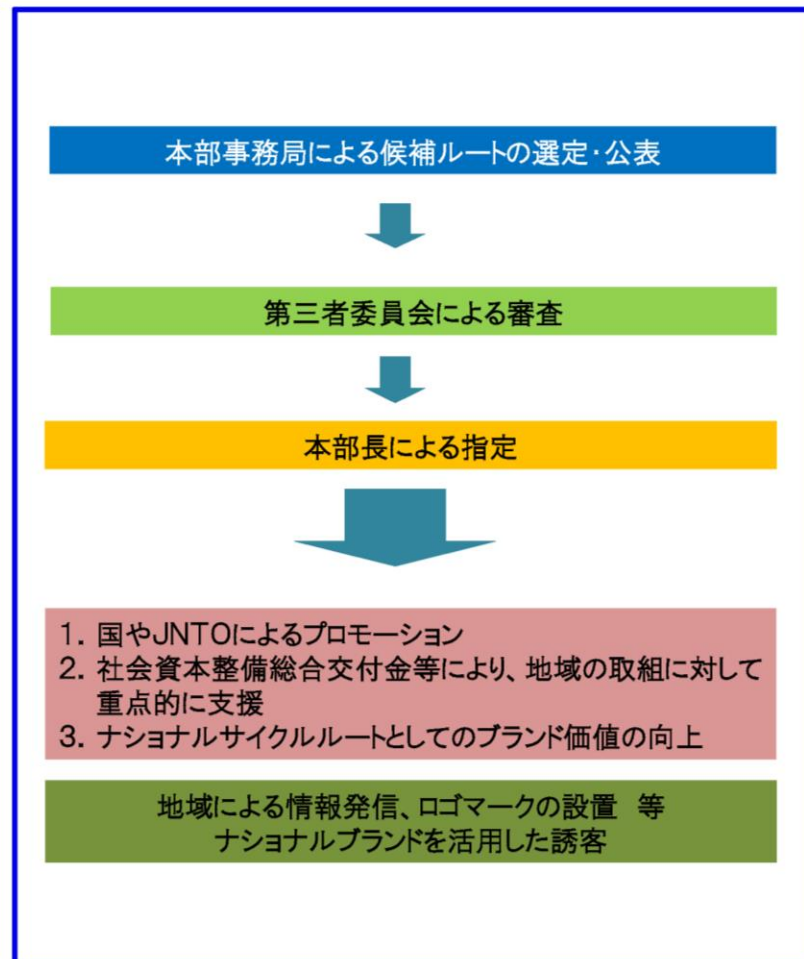
ナショナルサイクルルート制度について

- 優れた観光資源を有機的に連携したサイクルツーリズムの推進により、日本における新たな観光価値を創造し、地域の創生を図るために、一定の水準を満たすルートを対象として「ナショナルサイクルルート」に指定する。
- ルートにおける取組の継続性を評価する必要があることから、新たなルートの指定の有無の確認については、国の自転車活用推進計画期間内に1回とし、3～5年ごとに実施する。

■ ナショナルサイクルルートの指定要件

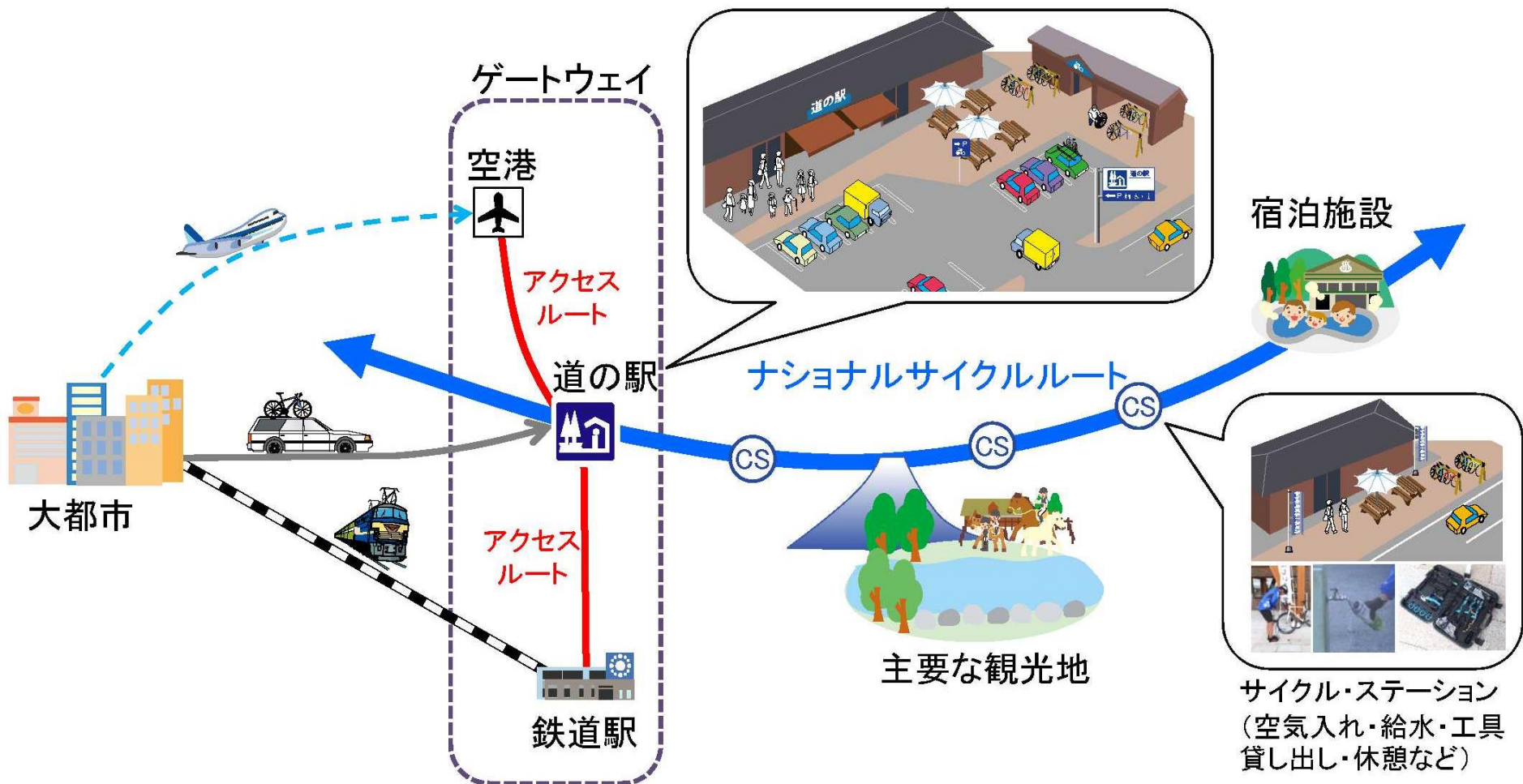
観点	指定要件
1. ルート設定	①サイクルツーリズムの推進に資する魅力ある安全なルートであること ・ルートの延長が概ね100km以上であること(島しょ部を除く) 他
2. 走行環境	①誰もが安全・快適に走行できる環境を備えていること ・矢羽根等により自転車通行空間が整備されていること 他
	②誰もが迷わず安心して走行できる環境を備えていること ・経路などの路面表示、案内看板が設置されていること 他 (単路部概ね5kmごと、すべての分岐部)
3. 受入環境	①多様な交通手段に対応したゲートウェイが整備されていること ・鉄道駅などに、レンタサイクルや着替え場所等が整備されていること 他
	②いつでも休憩できる環境を備えていること ・サイクルステーションがルート上に概ね20kmごとに整備されていること 他
	③ルート沿いに自転車を運搬しながら移動可能な環境を備えていること
	④サイクリストが安心して宿泊可能な環境を備えていること ・ルート直近にサイクリスト向けの宿泊施設が概ね60kmごとにあること 他
	⑤地域の魅力を満喫でき、地域振興にも寄与する環境を備えていること
	⑥自転車のトラブルに対応できる環境を備えていること
4. 情報発信	⑦緊急時のサポートが得られる環境を備えていること ・救急車などが概ね2kmごとに到達できること 他
	①誰もがどこでも容易に情報が得られる環境を備えていること ・ホームページなどで日英2か国語以上により情報発信をしていること 他
5. 取組体制	①官民連携によるサイクリング環境の水準維持等に必要な取組体制が確立されていること

■ ナショナルサイクルルートの指定手続き



1) ルート設定

ナショナルサイクルルートは複数自治体を跨ぎ、主要な観光地を連絡する延長100km超のロングライドルートを設定。
ルート近傍の主要アクセスポイントである空港、鉄道駅、道の駅等に、サイクリストの受入施設となる「ゲートウェイ」を整備することが必要。



6. 第1次ナショナルサイクルルートへの指定

第1次ナショナルサイクルートを指定

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

 令和元年11月7日
 自転車活用推進本部

第1次ナショナルサイクルートを指定しました！

～日本を代表し、世界に誇りうるサイクリングルートが本格始動～

本日、日本を代表し、世界に誇りうるサイクリングルートについて、国内外にPRを図るため、第1次ナショナルサイクルートの指定を行いました。

あわせて、ナショナルサイクルートのブランディングを図るため公募を行った、ルート上やポータルサイト等で使用するロゴマークを決定しました。

1. 第1次ナショナルサイクルート

名称	延長	起終点及び経過地
つくば霞ヶ浦りんりんロード (英語) Tsukuba-Kasumigaura ring-ring road	176km	自：茨城県桜川市 JR 岩瀬駅 至：茨城県潮来市 水郷潮来バスターミナル
ビワイチ (英語) Biwaichi	193km	自 滋賀県大津市 瀬田唐橋 至 滋賀県大津市 瀬田唐橋 (琵琶湖岸一周(反時計回りの一方通行))
しまなみ海道サイクリングロード (英語) SHIMANAMI KAIDO cycling road	70km	自：広島県尾道市 JR 尾道駅 至：愛媛県今治市 サンライズ系山

2. ナショナルサイクルートロゴマーク



○コンセプト

「和」をイメージ。和やかに心地よいサイクリング、その土地で出会うヒトやモノやコトとのつながり。
 (「輪」と「和」)

○作成者

ロゴは273点のご応募の中から選ばれました岡山県の落合翔平さんの作品です。

※ロゴマークのダウンロード先や使用方法については別途決定し、本事務局のHPに掲載します。

問い合わせ先

国土交通省自転車活用推進本部事務局 和賀、中尾

電話 03-5253-8111 (内線 38103、38225)

03-5253-8497 (直通)

FAX 03-5253-1622



■赤羽国土交通大臣コメント

「本日のナショナルサイクルートの決定を契機として、国内外からサイクリストが各地域を訪れ、その魅力を満喫していただけるよう、国としても、国内外への情報発信を協力に進めるなど、地域の皆様の取組を最大限支援してまいります。」



第1次ナショナルサイクルルート(3ルート)

走行環境の整備及びサイクルツーリズム推進に向けたソフト施策の取組が一定程度進んでいる、下記の3ルート指定。



つくば霞ヶ浦りんりんロード

■概要

JR岩瀬駅～JR土浦駅間及び霞ヶ浦湖岸一周(茨城県)
延長:約180km

■取組内容

【走行環境の整備】



(矢羽根とルート案内)

【サイクルツーリズム推進のための取組】



英語、繁体字に対応したマップ、観光情報も充実



りんりんスクエア土浦(ゲートウェイ)
茨城県が主体となって、土浦市と連携し整備した全国初の鉄道駅直結サイクリング拠点(2018.3.29開業)



りんりんポート土浦(ゲートウェイ)
サイクリング拠点「りんりんポート土浦」(2019.3.30開業)



凡例
つくば霞ヶ浦りんりんロード
ゲートウェイ

しまなみ海道サイクリングロード

■概要

JR尾道駅(広島県)～サンライズ系山(愛媛県)
延長:約70km

■取組内容

【走行環境の整備】



車道の路側に推奨ルートを示すブルーラインと路面標示を整備

【サイクルツーリズム推進のための取組】



サイクルオアシス

尾道駅 おのたびゲート(ゲートウェイ)

今治駅 (ゲートウェイ)



ONOMICHI U2(サイクリスト専用ホテル)



しまなみサイクルトレイン(JR四国)



凡例
しまなみ海道サイクリングロード
ゲートウェイ

ビワイチ

■概要

琵琶湖岸一周(滋賀県)
延長:約190km

■取組内容

【走行環境の整備】



案内看板設置例

矢羽根設置例

【サイクルツーリズム推進のための取組】



湖上交渉活用例(守山市 漁船タクシー)

米原駅サイクルステーション(ゲートウェイ)



マップ(日・英・中(繁))3言語版を作成

サイクルサポートステーション(トイレ・ポンプ貸出、休憩所等)



凡例
ビワイチ
ゲートウェイ

(1) つくば霞ヶ浦りんりんロード(茨城県)

○サイクリングを核に筑波山や霞ヶ浦などの豊かな地域資源を結びつけ、東京圏からの優れたアクセス性を活かしながら、誰もが多様にサイクリングを楽しむことができるサイクリング環境を構築している。

快適で安全安心にサイクリングができる環境の整備

○自転車走行空間の整備

・旧筑波鉄道の廃線敷を利用し整備した「つくばりんりんロード」と霞ヶ浦湖岸の道路を一体化し総延長約180kmとなるサイクリングコースとして設定している。



(矢羽根とルート案内)

○ルート案内や注意喚起等のサイン整備

・初めて訪れたサイクリストでも分かりやすいルート案内や安全で快適に走行できるよう多言語による注意喚起等のサインを設置している。



(多言語のサイン)

【使用言語】

- ・日本語
- ・英語
- ・タイ語
- ・中国語
- ・韓国語

サイクルツーリズム推進のための取組

○最新スポーツバイクによる広域レンタサイクルシステムの導入

※貸出施設(10箇所)、貸出自転車(スポーツバイク等109台)

○地域の魅力を活かしたサイクリングイベント等の開催

○多言語に対応した情報発信

○JR駅直結のサイクリング拠点施設「りんりんスクエア土浦」の整備

○車利用者向けのサイクリング拠点施設「りんりんポート土浦」の整備

○官民一体となった推進体制を構築

※つくば霞ヶ浦りんりんロード利活用推進協議会(2018年7月～)

⇒サイクルツーリズムの取組を県内全域で推進



協議会の設立総会



りんりんスクエア土浦
茨城県が主体となって、土浦市と連携し整備した全国初の鉄道駅直結サイクリング拠点(2018.3.29開業)

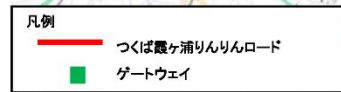


りんりんポート土浦
サイクリング拠点「りんりんポート土浦」(2019.3.30開業)

英語、繁体字に対応したマップ、観光情報も充実



【広域図】



つくば霞ヶ浦りんりんロード
自転車利用者数(人)
R2(目標) 約10万人

↑
H30 約8.1万人
H29 約5.5万人
H28 約4.8万人
H27 約3.9万人



(2)ビワイチ(滋賀県)

日本最大の湖「琵琶湖」を一周する「ビワイチ」を中心に、サイクリストから家族連れ、海外旅行者などの多様な来訪者が県内各地を安全に自転車で周遊できる環境を構築している。

安全で快適な自転車走行環境の構築

- 路面整備
 - 青矢羽根の設置や植栽帯を活用した路肩拡幅、自転車歩行者専用道路の指定により走行空間を確保
- 案内看板
 - 案内看板設置例
 - 路面表示設置例
 - 植栽帯を活用した空間創出例

自転車観光の推進のための取り組み

- サイクルサポートステーション、レンタサイクル拠点の整備
 - 自転車搭載船の運行(湖上交通の活用)
 - 「ビワイチ」ツアーの造成にむけたトッププロモーション、ファムツアー
 - 「ビワイチ」ツアーガイド養成など、おもてなし人材の育成
 - 情報発信(WEB、アプリ、イベント出展等)
- ※「ビワイチ」を中心に内陸部の県内各地を周遊する「ビワイチ・プラス」を展開し、自転車観光を推進することで、本県の認知度向上や交流人口の増加を図り、地域活性化につなげていく。

サイクルサポートステーション
(トイレ・ポンプ貸出、休憩所等308カ所:R1.7現在)

湖上交通活用例
(守山市 漁船タクシー)

レンタサイクルの拠点整備
(米原駅 サイクルステーション)

ぐるっとびわ湖サイクリングマップ

日本語版 | ENGLISH | 中国語版

マップ (日・英・中(繁) 3言語版を作成)

ビワイチ走行台数(人数) ← H30 約10.6万人
R2(目標)16.5万人
H29 約9.5万人

延長約190km

凡例
— ビワイチ
■ ゲートウェイ

Callouts on the map include: 北陸自動車道, 旧越ヶ岳トンネル前(長浜市), 黒壁スクエア(長浜市), 豊公園・長浜城(長浜市), 彦根城(彦根市), 彦根駅, 米原駅, 近江八幡市, 守山市, 大津市, 三井寺(大津市), 近江神宮(大津市), 琵琶湖大橋, 琵琶湖サイクリストの聖地(守山市), 近江八幡市, 白旗神社(高島市), 海津大崎(高島市), 北湖西線, 北湖本線, 近江西線, 近江湖東線, 琵琶湖, 彦根市, 大津市, 彦根湖疎水(大津市), 瀬田唐橋(大津市).

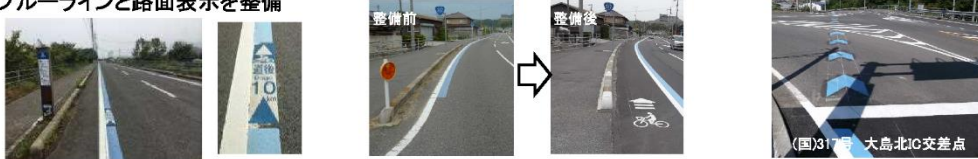
(3)しまなみ海道サイクリングロード(広島県、愛媛県)

○瀬戸内海の島々が織りなす絶景を望む、日本初の海峡を横断する自転車道として、官民一体となり、サイクリング環境向上の取組みを継続的に推進し、更なるブランド力の向上を図っている。

快適で安全安心にサイクリングができる環境の整備

○自転車走行環境整備(ルートの明示・案内表示)

- ・ 車道の路側に推奨ルートを明示するブルーラインと路面表示を整備
- ・ 歩道幅員を再配分し路肩を拡幅
- ・ 主要交差点に矢羽根を設置



- ・ 平成26年7月19日より自転車通行料金の無料化を実現し、料金所で一旦停止する必要がなくなり、利用環境が格段に向上

サイクルツーリズム推進のための取組

- 地元との協働による休憩スポット・レスキューポイントの整備
- 自転車を直接持ち込めるサイクルバス、サイクルトレイン、サイクルシップの運行
- 全国初のサイクリスト専用ホテルがオープン(H26.3)
- 民間企業の協賛によるセーフティーマット・広告看板の設置
- 国際サイクリング大会の開催(2014・2016・2018・2020予定)
- H26年に米国CNN「世界7大サイクリングルート」に選定。ニューヨークタイムズで「2019年に行くべきデスティネーション」(52エリア)に「瀬戸内の島々Setouchi Islands」が日本で唯一選出。
- HPに英語版サイクリングマップ掲載、英語版グーグルマップにおけるルート及びレンタサイクルターミナルの表示(R1.7)
- 外国人観光客向けHP「VISIT HIROSHIMA」に多言語(英・仏・韓・中)でしまなみ海道のサイクリング情報を掲載

<これからの取組>

- 新たなサイクリング層の獲得に向けてレンタサイクル実証実験を通じてE-BIKEの普及・拡大を図るプロジェクト「E-BIKEアクションしまなみ」を始動(R1.7~)
- しまなみ海道の情報をメインとした愛媛県のポータルサイト(多言語(英・韓・中)対応)の構築(R1.9予定)

サイクルオアシス
(約150箇所H30.3現在)

企業協賛によるセーフティーマット設置等
(45社協賛)

ONOMICHI U2
(サイクリスト専用ホテル)

しまなみサイクルトレイン(JR四国)

CNN「世界7大サイクリングルート」に選定

多言語に対応したHP

サイクリングしまなみ2018

平成30年参加者:
7,215人
(うち海外26の国と地域から701人)

